

台風19号の爪痕は想像以上に深刻で、三重県南部や全国的にも大きな被害をもたらしました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた方には、謹んでお見舞い申し上げます。現在も学校体育館等で避難所生活を強いられている方は4000人以上おられると聞きます。四郷地区は、昭和49年豪雨により天白川が氾濫し、周辺家屋が浸水ならびに当時の八王子線線路が大きな被害を受けたことを鮮明にご記憶されている方もいらっしゃると思います。災害による被害は決して他人ごとではない時代が到来したのかなど不安になります。そのためにはやはり訓練の積み重ねが必要です。

四郷地域・学校合同防災訓練…まずは自分の命を守る

10月19日の土曜授業日の午前中に、第9回目の合同防災訓練が行われました。総勢774人の参加となりました。前日からの雨のため、体育館周辺の雨天時設定となりましたが、今年も起震車を2台要請するなど、子どもたちにとって貴重な体験となりました。子どもたちは真剣に真面目に、そして積極的に訓練に参加していた



との声を地域の方から聞きました。本校児童は全学年が毎年体験でき、後日さらに中学年が四郷分団の皆様（裏面新聞記事参照）から学習のおさらいを依頼しています。今年は、笹川中学校の生徒さんにも参加していただきました。避難訓練において、「自分の命を守る」「真剣にやることの大切さ」を繰り返し子どもたちに伝えてきました。昨年の訓練挨拶時には「食べ物に好き嫌が多いと、避難所生活において大変苦勞するそうなので、少しでも好き嫌いを減らすようにしましょう。」と伝えました。避難所生活において、子どもも大人も極力ストレスを与えないような対策も必要です。

前日より会場準備や炊き出し訓練のためにご準備いただいた自治会役員の皆様、各地区の女性部やPTA役員の皆様、大変お世話になりました。片付けも含め、本当にありがとうございました。最後に、川村分団長さんから、今回の訓練の講評をいただきましたので、以下に紹介します。

●地震などの突然の災害時には、まず落ち着いて、どのように行動すればよいかを考える。まずは自分の命を守ることが第一。そうすれば、違う命を救うことができる。

●中学生や小学校高学年は、貴重な力となる。災害時、特にお年寄りを救ってほしい。声をかけるだけでもよい。低学年は、大人のかわりに地域の小さい子の面倒をみてほしい。そうすれば、四郷地区はこれからも安心なまちであり続ける。

●災害時、リーダーの存在が不可欠で、瞬時の判断と全体指示が大切。四郷っ子が将来そんな子どもに育つよう、まず大人一人一人がリーダーシップのお手本を示す。大人が指示待ちの受け身では、子どもも受け身になる。

※地域の防災リーダーやボランティアさんは高齢化傾向にあります。「これからは、次の世代や若手が引き継ぎ、四郷の地域を支え、災害や事故から守ってほしい。」と各団体代表様から常にお聞きしています。

連絡

・朝夕寒くなってきました。数年前、ポケットに手を入れたまますべって転倒し、顔面強打をした大人を目撃したことがありました。安全上、寒い日の登校時は手袋の着用をお勧めします。11月から業間5分間走が行われますが、着用可です。ご準備よろしくお願いします。

・11月から3月までは、午後5時までに（暗くなる前に）帰宅するように心がけましょう。自転車運転時は、ヘルメット着用と早目のライト点灯を心がけましょう。